

緬甸方面ニ在リテハ昭和十八年十月防空兵力ヲ増強スルト共ニ北緬
方面ニ於ケル作戰兵力トシテ十一月内地ニ於テ第五十三師團及第七
野戰補充隊ヲ動員南緬甸、タイニ推進南部「ビルマ」ニ獨立混成第二
十四旅團、昭和十九年一月六日南西「ビルマ」ノ統帥組織ヲ確立シ
方面軍司令官ヲシテ全般作戰ヲ北緬及インパール方面ノ作戰指導
ニ便ナラシムル爲同方面ニ第二十八軍司令部ヲ新設シ緬甸方面軍司
令官ノ隷下ニ入ラシム

三月八日「インパール」作戰開始後同方面ノ戰況ニ鑒ミ第十五軍司
令部ヲシテ之カ作戰指導ヲ容易ニスル爲北緬方面ノ統帥ニ專念スヘ
キ第三十三軍司令部ヲ新設ス第三十三軍ハ緬甸方面軍ニ隷シ第十八
師團、第五十六師團及軍直部隊等ヲ統率ス次テ五月二十七日朝鮮ニ
在ル第四十九師團ヲ動員シ之ヲ派遣ス

比島方面ハ從來南方全域ニ對スル補充補給ノ兵站基地的存在ニシテ
兵備ハ島内ニ活動シツツアリタル匪團ニ對スルモノヲ主トシ四月現
在地上兵力ハ第十六師團ノ外混成旅團數個航空部隊ニ在リテハ殆ン
ト見ルヘキモノナク戰況ノ急迫ニ伴ヒ急速ニ之カ戰備ヲ強化スルノ

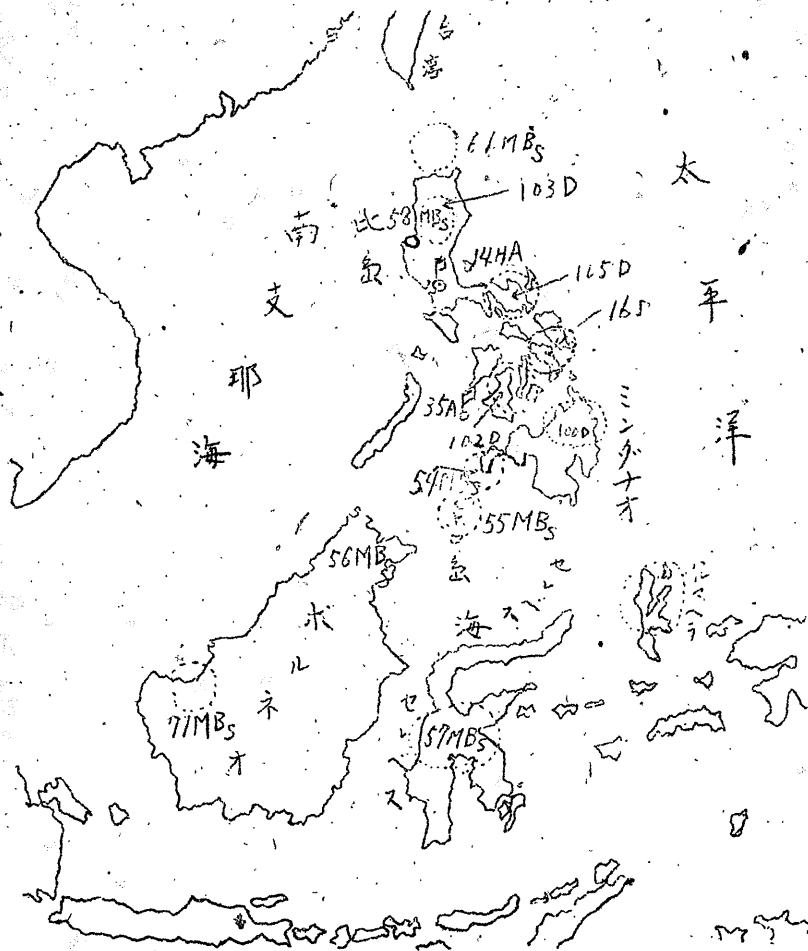
要アルニ至リ航空作戰準備ノ完成ヲ第一トスル「第十一號戰備強化要領」ニ基キ昭和十九年四月頃ヨリ之ニ著手シ之カ第一著手トシテ四月十二日朝鮮ニ在ル第三十師團ヲ動員シテ之ヲ「ミンダナオ」島ニ派遣五月マニラ港ノ防空強化ノ爲マニラ高射砲隊司令部ヲ新設六月十五日從來比島ニ在リタル機成旅團ヲ基幹トシテ比島ニ第百、第一〇二、第一〇三、第一〇五師團及獨立混成旅團二箇(ボルネオ島ニ一箇「レベス」島ニ一箇)ヲ現地ニ於テ新設ス斯スル内敵ノ「サイパン」ニ對スル反攻及バラオ周邊海域ニ於ケル帝國海軍ノ大ナル損耗等アリ戰備ノ完整ハ一日ノ遅延ヲ許サス六月末内地ニ在ル第四十七師團ノ一部(第五十八旅團ト稱ス)ヲ次テ七月十日獨立混成第六十一旅團ヲ「バシー」海峽島嶼、十二日内地ニ於テ機關砲、速射砲、臼砲、迫撃大隊等ヲ急遽假編ノ上之ヲ比島ニ派遣コノ間第八、第二十六師團戰車第二師團ヲ滿洲ヨリ抽出同方面ニ派遣スルノ決定等アリ茲ニ於テ七月二十六日比島地區ノ統帥組織ヲ更改シ從來ノ第十四軍ヲ第十四軍方面軍トシ新ニ中南部比島統率ノ爲第三十五軍ヲ「セブ島」ニ新設ス

新設ス

比島方面ノ情勢ニ鑑ミ南万圍ト本土圖ト分斷近キニアルヲ豫想シテ南万重
ノ兵備的獨立性ヲ考慮シ五月頃ヨリ南方緊急補充員トシテ約七萬人
（幹部ヲ含ム）ノ急速輸送ヲ實施ス

七月末頃ニ於ケル比島方面兵備ノ概況左ノ如シ

比島方面兵備概要要図



十一
十八

1863

(四) 中部太平洋方面ノ兵備概況

昭和十八年夏頃ニ於ケル兵備ノ現況

南東太平洋方面ニ於ケル戦況ノ悪化ニ伴ヒ中部太平洋ノ要衝「マ
ーシャル」「ギルバート」ニ來攻ノ算大トナリ四月南海第一守備
隊ヲ「ミレ」島方面ニ同第二守備隊ヲ南鳥島ニ越テ六月同第三守
備隊ヲ大鳥島、同第四守備隊ヲ「ギルバート」諸島ニ配備ス

昭和十八年末ヨリ昭和十九年末ニ至ル兵備概況

然レトモ南東太平洋方面ノ日々變化スル戦況ニ處シ中部太平洋ノ
急速強化ノ必要ヲ生シ九月南洋第一支隊（南海第一守備隊及歩兵
第一二二聯隊ヲ基幹トシ人員約三千五百）ヲミレ島及「マロエラ
ツブ」島等ニ十一月滿洲ニ於テ編成セル南洋第二支隊（第四獨立
守備隊司令部、獨立守備歩兵第十九、第二十、第二十一大隊等ヲ
基幹トシ人員約二千名）ヲ「クサイ」島ニ十二月同シク滿洲ニ
於テ編成セル南洋第三守備隊（人員約二千名）ヲ「ボナベ」島
ニ内地ニ於テ動員セル同第四守備隊（人員約七百名）ヲ「モー

一一ノ八

トロツク」島ニ昭和十九年一月南海第五守備隊ヲ「メレオン」島
ニ在滿第三獨立守備隊司令部、第十五、第十六獨立守備歩兵大隊
ヲ基幹トセル海上機動第一旅團ヲ「クエゼリン」島ニ配備スルモ
逐次更ニ之ヲ増強スル必要ヲ生ジ特ニ二月ニハ「トラツク」島「マ
ーシャル」島等ニ對シ敵機動艦隊ノ攻撃アリ茲ニ於テ陸軍ハ二月
内地金澤ニ在リタル第五十二師團ヲ「トラツク」島へ在滿第十四
師團ヲ「パラオ」島へ同第二十九師團ヲ「グアム」島ニ派遣スル
ノ外二月乃至三月ノ間ニ在滿兵團ヨリ一部兵力ヲ抽出シテ派遣隊
ヲ臨時編成シ中部太平洋ニ増派ス其ノ概況左ノ如シ

派遣隊名	第一派遣隊	第二派遣隊	第三派遣隊
總 廣 部 隊	第二十五步兵連司令部 歩兵第四十聯隊第三大隊 歩兵第十聯隊第三大隊 歩兵第十四聯隊第三大隊 歩兵第八十九聯隊第三大隊 獨立山砲兵第三聯隊（第二大隊缺） 野砲兵第十聯隊第三大隊 工兵第二十五聯隊第三中隊	歩兵第七聯隊第三大隊 歩兵第十九聯隊第三大隊 山砲兵第九聯隊第一大隊 工兵第八聯隊第三中隊	第八步兵團司令部 歩兵第五聯隊第一大隊 歩兵第十七聯隊第一大隊 歩兵第三十一聯隊第三大隊 野砲兵第八聯隊第三大隊 工兵第八聯隊第三中隊
備 考	サイ イ バ ン	ト ラ ツ ク	エ ン タ ビ ー

1866

<p>第六派遣隊</p>	<p>第五派遣隊</p>	<p>第四派遣隊</p>
<p>第十一歩兵團司令部 歩兵第一聯隊第二大隊 歩兵第十二聯隊第三大隊 歩兵第四十三聯隊第三大隊 歩兵第四十四聯隊第一大隊 歩兵第四十九聯隊第三大隊 歩兵第五十七聯隊第三大隊 野砲兵第一聯隊第三大隊</p>	<p>第七十一歩兵團司令部 歩兵第八十七聯隊第三大隊 歩兵第八十八聯隊第三大隊 山砲兵第七十一聯隊第一大隊 工兵第七十一聯隊第三中隊</p>	<p>第十二歩兵團司令部 歩兵第二十四聯隊第三大隊 歩兵第四十六聯隊第三大隊 歩兵第四十八聯隊第三大隊 野砲兵第二十四聯隊第三大隊 工兵第十八聯隊第三中隊</p>
<p>大 官 島 (グアム島)</p>	<p>バ ガ シ 島</p>	<p>ヤ ッ プ 島</p>

1867

第九派遣隊	第八聯隊	第七聯隊	
<p>第二十四歩兵司令部</p> <p>獨立守備歩兵第十二大隊</p> <p>獨立守備歩兵第十四大隊</p> <p>獨立守備歩兵第二十八大隊</p>	<p>第三獨立守備隊司令部</p> <p>歩兵第七十三聯隊第三大隊</p> <p>歩兵第七十五聯隊第三大隊</p> <p>歩兵第七十六聯隊第三大隊</p> <p>山砲兵第二十五聯隊第三大隊</p> <p>工兵第十九聯隊第三中隊</p>	<p>步兵第三十二聯隊第一大隊</p> <p>歩兵第三十二聯隊第三大隊</p> <p>野砲兵第四十二聯隊第三大隊</p> <p>工兵第三十四聯隊第三中隊</p>	<p>山砲兵第十一聯隊第三大隊</p> <p>工兵第十一聯隊第三中隊</p> <p>工兵第一聯隊第三中隊</p>
ヤップ島	トラック島	レヨン島	

1868

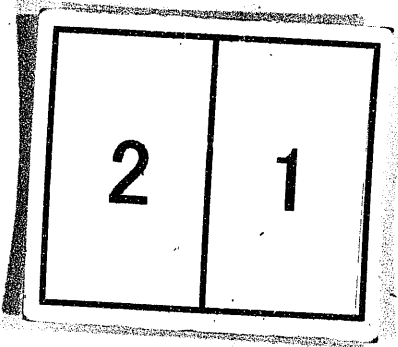
以上ノ如キ兵力派遣ニ伴ヒ昭和十九年二月之カ統率ニ任スヘキ第三十一軍司令部ヲ新設シ次テ四月内地ニ在ル第四十三師團ヲ勤員シテ「サイパン」ニ派遣ス

尙コノ間獨立混成第五聯隊ヲ勤員シ南鳥島ニ派遣ス

斯ノ如ク中部太平洋方面ノ戦備ハ情勢ノ進展ニ伴ヒ逐次ニ之ヲ強化セル爲種々ノ部隊混成シ統率上適當ナラサルモノアルヲ以テ昭和十九年五月二十二日從來ノ派遣部隊ヲ彼此統合シ新ニ獨立混成第五十第五十一、第五十二旅團等ヲ編成ス其ノ概要左ノ如ク之カ改編終了ニ先タチ「サイパン」島ニ對スル敵ノ反攻ヲ見ルニ至レリ

1869

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	第31軍編成充て部隊一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

附表第一

十一ノ十五

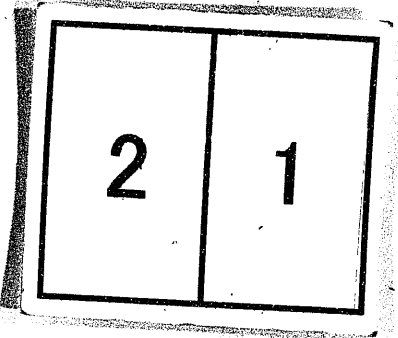
第三十一軍編成充當部隊一覽表(現地改編玉碎部隊除之)

第五十二師團										第五十三師團司令部		第五十九聯隊		編成地		
第五十二師團司令部										司令部		司令部		編成地		
第五十二師團野戰病院	第五十二師團經理勤務隊	第五十二師團兵器勤務隊	第五十二師團海上輸送隊	第五十二師團輜重隊	第五十二師團通信隊	第五十二師團戰車隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊	步兵第五十聯隊
1AE	52D	16BA	51/55	52T	IL/52D	2TK	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
2AE	司令部						上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
4AE	司令部															
52B																
滿洲	沢	金島比	沢	金野志	習本松	沢	金	東京	田沼	金澤	習志野	澤	金山	山	富	澤
24	18.11.15	18.11.14	18.11.22	18.11.22	18.11.22	18.11.4		18.1.29				18.11.20	18.11.5			
サウ								サウ								

1870
1871

團旅一第動機上海				隊支四第洋南 (隊部二七)				團師二十五第 (一五六十四柏)																																																																																																																							
輸衛通工機戰第第第司 送生信兵 閔 車 三二一 隊隊隊隊隊隊隊隊隊隊				隊隊九第兵工五獨 (隊部一八四柏)				戰步本 車兵大 隊隊部				工戰第 兵車三 隊隊隊				第五十一師團野戰病院				第五十二師團經理勤務隊				第五十二師團兵器勤務隊				第五十二師團海上輸送隊				第五十二師團輜重隊				第五十二師團通信隊				第五十二師團戰車隊				步兵第百五十聯隊				隊聯七百第兵步				步兵第六十九聯隊																																																																											
				材三二一 小中中中				隊隊隊隊				補 兵第十四聯隊				1AE 2AE 4AE 52B				52D				16BA				51/3S				52T				IL 52D				2TK				同				2/52p 107L 107L 補				東 III 16BA 107L 補				同				上																																																																			
洲				滿				水				口				山				洲				滿				沢				金				島				比				沢				金				野				志				習				本				松				沢				金				東				日				沼				金				澤				習				野				澤				金				山				富				洲			
18.11.30				19.2				18.2.16				10.11				24				18.11.15				18.11.14				18.11.22				18.11.22				18.11.22				18.11.4				18.12.9				18.11.20				18.11.20																																																																											
クリロケ部-ウラブリ主 アシラエロマエナウ								シロト-エ				島L1				サケ																ク				ツ				ラ				ト				ペナ和及山部-各山サケカ主				ク				ツ				ラ																																																																			

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	第31軍編成充部隊一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

附表第二

第三十一軍編成充當部隊一覽表（現地改編部隊、部）

十一ノ十三

獨五混成第五旅團		南洋第一支隊		部隊名
工兵隊	高射砲隊	砲兵隊	戰車隊	區編
工兵第三四聯隊第三大隊	野戰高射砲第五大隊	野砲兵第四三聯隊第三大隊	南洋第五支隊本部第一中隊	分充當部隊
				編成地
				完結日
				駐地

昭和十九年六月七日

昭和十八年十月三日

1872
1873

獨五混成第五旅團

獨立步兵第一大隊	獨立步兵第二大隊	獨立步兵第三大隊	獨立步兵第四大隊	獨立步兵第五大隊	獨立步兵第六大隊	獨立步兵第七大隊	獨立步兵第八大隊	獨立步兵第九大隊	獨立步兵第十大隊
獨立步兵第十一大隊	獨立步兵第十二大隊	獨立步兵第十三大隊	獨立步兵第十四大隊	獨立步兵第十五大隊	獨立步兵第十六大隊	獨立步兵第十七大隊	獨立步兵第十八大隊	獨立步兵第十九大隊	獨立步兵第二十大隊
獨立步兵第二十一大隊	獨立步兵第二十二大隊	獨立步兵第二十三大隊	獨立步兵第二十四大隊	獨立步兵第二十五大隊	獨立步兵第二十六大隊	獨立步兵第二十七大隊	獨立步兵第二十八大隊	獨立步兵第二十九大隊	獨立步兵第三十大隊

昭和十九年六月七日

獨立混成第五旅團 獨立混成第五旅團

司令部	南洋第三支隊本部	南洋第二支隊	南洋第一支隊	南洋第三支隊砲兵隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊	南洋第一支隊戰車隊	南洋第二支隊戰車隊
-----	----------	--------	--------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

昭和十九年九月六日

昭和十九年九月七日

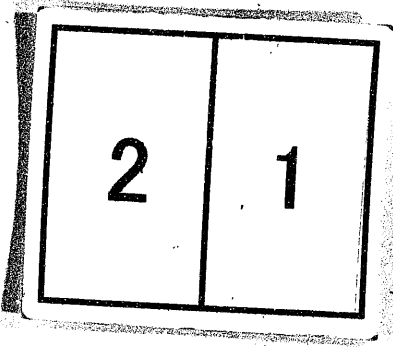
獨立混成第五旅團

隊	司令部	獨步第三三一大隊	獨步第三三二大隊	獨步第三三三大隊	獨步第三三四大隊	獨步第三三五大隊	戰車隊	砲兵隊	高射砲隊	工兵隊
南洋第五支隊本部第六派遣隊本部要員 ラレラシ第四十三師回野病一隊	南洋第五支隊第一大隊	南洋第五支隊第二大隊	步兵第二二聯隊第一大隊	步兵第三三聯隊第三大隊	步兵第三三聯隊第二大隊	獨立守備步兵第四大隊 主力	第七派遣隊各大隊各一中隊	南洋第五支隊戰車一中隊	野砲兵第四聯隊第三大隊 野戰高射砲隊第五三大隊	工兵第二四聯隊第三大隊

昭和十九年六月七日

昭和十九年六月七日

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	部隊編成表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

屬表

部隊名	獨 混 成		獨 混 成	
	第四十九團	第二十二聯隊	第一聯隊	第二聯隊
區編	司令部	野砲兵中隊	砲兵中隊	砲兵中隊
充當部	第廿四步兵團司令部 第廿二步兵團司令部	野砲兵中隊	砲兵中隊	砲兵中隊
編成地	ヤ	フ	フ	フ
完結日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月七日
駐屯地	ヤ	フ	フ	フ

獨混成第五聯隊
(第一、二、三、四、五、六、七、八)

本	第一大隊	第一聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
部	第二大隊	第二聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
	第三大隊	第三聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
	第四大隊	第四聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
	第五大隊	第五聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
	第六大隊	第六聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
	第七大隊	第七聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵
	第八大隊	第八聯隊	砲兵	砲兵	高射砲	工兵

昭和十九年六月三十日
島カハフ

1874
1875

成混立獨 隊聯二十第					
戰車隊	通信隊	砲兵中隊	第一大隊	第二大隊	野砲兵中隊
戰車中隊一六聯隊才二中隊及整備中隊	通信隊	野砲兵中隊	同右	獨立混成第五聯隊本部	南海第二中隊
島 島 南					
日七月六年九十和昭					
島 島 南					

隊聯九第成混立獨 (隊部三八五七一第備)					
通信隊	工兵隊	高射砲隊	砲兵隊	第三大隊	第二大隊
工兵第七中隊	獨立高射砲第四中隊	砲兵第七大隊	獨立混成第五聯隊本部	南海第二中隊	獨立混成第五聯隊本部
島 島 南					
日三十月六年九十和昭					
島 島 南					

隊聯十第成混立獨 (隊部四八五七一第備)					
通信隊	工兵隊	砲兵隊	第一大隊	第二大隊	第三大隊
工兵第一聯隊第三中隊	砲兵第十一聯隊第三大隊	砲兵第十一聯隊第三大隊	獨立混成第五聯隊本部	南海第二中隊	獨立混成第五聯隊本部
島 島 南					
日七月六年九十和昭					
島 島 南					

隊聯一十第成混立獨 (隊部五八五七一第備)					
通信隊	工兵隊	高射砲隊	砲兵隊	第一大隊	第二大隊
工兵第八聯隊第二中隊	砲兵第八聯隊第一大隊	砲兵第八聯隊第一大隊	獨立混成第五聯隊本部	南海第二中隊	獨立混成第五聯隊本部
島 島 南					
日三十月六年九十和昭					
島 島 南					

隊聯三十第成混立獨 (隊部七八五七一第備)					
通信隊	工兵隊	砲兵隊	第一大隊	第二大隊	第三大隊
工兵第七中隊	砲兵第七大隊	砲兵第七大隊	獨立混成第五聯隊本部	南海第二中隊	獨立混成第五聯隊本部
島 島 南					
日三十月六年九十和昭					
島 島 南					

考 備
七月以降
獨立混成第四十九聯隊及獨立混成第十二聯隊八天及昭和十九年

3 小笠原諸島ニ在リテハ從來ヨリ父島要塞ヲ中部太平洋方面ノ戦況甚
 惡化ニ伴ヒ昭和十九年初頭ヨリ要塞歩兵大隊ヲ動員シテ之カ兵備
 ●ヲ強化シタルカ昭和十九年五月二十二日之等部隊ヲ基幹トシテ第百
 百九師團ヲ動員ス其ノ編制左ノ如シ

師團司令部

混成第一旅團司令部

獨立歩兵第三〇三大隊

第百九師團

混成第一旅團砲兵隊	三〇四
混成第一旅團工兵隊	三〇五
	三〇六
	三〇七
	三〇八

混成第二旅團司令部	獨立歩兵第三〇九大隊	〃	三一〇	〃
〃	〃	〃	三一〇	〃
〃	〃	〃	三一〇	〃
〃	〃	〃	三一〇	〃
〃	〃	〃	三一〇	〃
混成第二旅團砲兵隊	〃	〃	三一〇	〃
混成第二旅團工兵隊	〃	〃	三一〇	〃
混成第二旅團野戰病院	〃	〃	三一〇	〃
混成第一聯隊	〃	〃	三一〇	〃
重砲兵第九聯隊	〃	〃	三一〇	〃
第百九師團高射砲隊	〃	〃	三一〇	〃
同 警戒隊	〃	〃	三一〇	〃
同 野戰病院	〃	〃	三一〇	〃
同 通信隊	〃	〃	三一〇	〃
父島陸軍病院	〃	〃	三一〇	〃

然レトモ「サイパン」ノ失陷ニ伴ヒ小笠原諸島特ニ黃硫島ノ急速ナル戦備ノ強化ハ緊喫ノ要務トナリ六月内地ニ於テ動員セル獨立混成第十七聯隊、獨立機關銃第一、第二大隊、獨立速射砲第九乃至第十二大隊中迫撃第二、第三大隊、獨立臼砲第二十大隊ヲ急派スルト共ニ輸送ノ關係ニテ内地ニ在リタル第四十六師團ノ歩兵第四百四十五聯隊及滿洲ヨリ轉用戦車第二十六聯隊ヲ増派シ次テ八月防空強化ノ爲特設機關砲六團ヲ派遣ス

又「パラオ」ニ在リテハ先ニ派遣セラレタル第十四師團ノ外戦況ニ鑑ミ南東及ニューギニヤ方面ヘノ輸送途次滯留シアリタル部隊、補充員、資材等ヲ「パラオ」ニ於テ戦力化スルノ必要ヲ生シ之等ヲ基幹トシテ獨立混成第五十三旅團ヲ新設ス

1878

〔満洲兵備〕(缺)

1879

内支那兵備（缺）

1880

（四）北東兵備

ノ十八年末ニ於ケル北東配備

「アツツ」島ノ玉碎「キスカ」島ノ撤退後ニ於テハ北東作戰路ノ
柳ヘトシテ千島列島全長一千二百軒ノ延長ニ

千島第一守備隊（長少將以下獨立歩兵第六大隊、砲兵、工兵、防
空、通信隊各一箇、陸軍病院一）ヲ占守島及幌筵島ニ、千島第二
守備隊（混成ノ一隊）ヲ松輪島ニ

千島第三守備隊（混成二大隊基幹）ヲ擇捉島ニ配備シ北部軍司令
官ハ札幌ニ位置シテ弘前師管區ヲ含ム以北ノ帝國ノ防衛ヲ擔任ス
ル外津輕海峽以北ノ

作戰任務ヲ付與セラレザリタリ當時北海道本島ハ第七師團「アツ
ツ」島ノ反攻準備ノ爲動員セル儘原駐地ニ主力ヲ置キテ防衛ニ任
シ（留守第七師團ハ動員シ非ス）之ニ若干ノ特設守備隊、要塞部
隊等ヲ配屬又ハ協力センムル外室蘭製鋼所防空ノ爲十八年九月十
八日至蘭防衛隊ヲ編成ス樺太ニ在リテハ昭和十六年七月動員セル

一一ノ二〇

樺太海成旅團（旅團司令部、二ヶ聯隊、山砲隊、工兵隊其他）

昭和十八年十一月新設セル第三〇守備隊ヲ以テ防衛ニ任シアリタ

リ
昭和十八年末―昭和十九年末ノ兵備強化

太平洋方面ノ戦況竝ニ「アッツ」、―キスカ―島投棄後ノ北太平洋方面ノ情勢ハ同方面ノ天候氣象ニ鑑ミ昭和十九年春季以降敵ノ反攻ヲ豫期セサルヘカラサルニ至リ千島ノ防備強化ハ切實緊急ノ處置トシテ昭和十八年末ヨリ左ノ構想ノモトニ之カ補充ニ著手セ

リ
北東兵備ノ構想ノ大綱

津輕海峽以北ヲ以テ作戰軍トナシ千島列島ニ在リテハ先ツ飛行場及海軍基地確保ノ見地ノ下ニ其ノ防備ヲ再檢討シテ確信アル兵備ヲ實施スルト共ニ北海道本島ノ兵備ヲ強化スルニ在リタリ
之カ實行配置ノ大要ハ全般兵備殊ニ太平洋方面兵備トノ關係ニ於テ當時ニ於ケル國力ト兵力運用特ニ船舶量及ヒ補給能力ノ見地ヨ

リ左ノ如キ兵力配置トナスコトニ決シ兵團ノ展開ヲ十九年春ヨリ着手セリ

而シテ各兵團ハ各島ノ大小、地形、港灣、飛行場適切ノ状況ヲ勘案シ各獨立防衛ニ適スル如ク且補給能力ニ鑑ミ馬匹、自動車ヲ蓄減シ火器ヲ増加セル編制トセリ

(イ) 二月一日第四十二師團ヲ動員ノ上松輪島、新知島、得撫島ニ輸送現地到着後改編千島第二守備隊ヲ併セ諸兵連合ノ歩兵三ヶ聯隊、工兵、通信、輜重等トス

(ロ) 昭和十九年四月八日滿洲ヨリ第五十七歩兵團司令部、獨立守備歩兵第三大隊基幹ヲ千島第一集團トシテ北千島ニ應用セリ

(ハ) 四月十二日千島第一守備隊及右ノ歩一大ヲ基幹トシテ占守及嶮延島ニ~~ハ~~旅團(☆獨歩四大基幹)、砲、工、通信、輜重ノ第一

九十一師團ヲ新設ス

(ニ) 四月十二日北海道ヨリ補充員ヲ假編成ノ上投入シテ千島第三守備隊ヲ基幹トシテ擇捉島ニ獨歩第四十三旅團(☆獨歩四大基幹)

一一ノ二一

ヲ新設ス

(内)北海道本島ニ在リテハ第七師團ヲ東部北海道ニ推進シテ防衛ノ強化ヲ圖ルト共ニ留守第七師團ヲ動員シテ西部北海道ノ防衛ニ任スルコトトセリ

又東部北海道ニ位置ヲ豫定セル海上機動第四旅團ハ運用上ノ見地ヨリ擇捉島單冠灣ニ推進セリ

(ハ)樺太ニ於テハ蘇聯ニ對シ無益ノ刺戟ヲ與ヘサル理由ニ依リコノ間符ニ戰備ノ強化ハ之ヲ行ハス

(ト)敘上ノ兵備ニ伴ヒ統帥機構ヲ強化スル爲略和十九年二月十八日擇捉島ニ第二十七軍司令部札幌ニ第五方面軍司令部ヲ編成シテ津輕海峡以北ノ作戰ヲ擔任セシムルト共ニ北部軍司令官ノ職權ヲ繼承セシメ且弘前師管區ハ之ヲ東部軍ノ管轄地域ニ編入セリ
(チ)然レトモ狀勢ノ推移ハ急調ニシテ豫定兵備ニ一部ノ補強ノ必要ヲ認ムルニ至リ滿洲ヨリ本土方面ニ轉用豫定中ノ二ヶ大隊基幹ヲ國後島ニ投入シテ昭和十九年四月獨逸第九聯隊ヲ新設ス

又昭和十九年七月北海道本島ニ於ケル重要港灣等ノ直接防備兵力ヲ強化ス次テ「サイパン」ノ失陥ト共ニ本土兵備強化ノ一環トシテ留守第七師團ヲ基幹トシテ第七十七師團ヲ動員シ道西地區ノ防備ヲ強化ス

一一ノ二二

1885

四 本土兵備

／ 在本土諸兵團ハ大本營戰略豫備及補充動員業務ヲ任務トシ昭和十

八年末一般師團七箇ハ7D 47D 42D 52D 43D 53D 46D 留守師團之箇ハ4D 51D 3D 4D 十

ル54D 55D 56D ナリモ53D 46D ハ十八年南方派遣、昭和十九年二月一日ル51D 3D 4D 十

四月七日ル53D ハ動員及派遣及二月2D 中部太平洋方面ノ派遣ニ伴ヒル42D

昭和十九年三月頃ニ於テハ本州ニ在リテハ作戰使用可能兵團ハ47D

ノ一師團ノミヲ有スルノ狀況ナリキ

2 太平洋方面ノ戰況ハ本土戰備ノ急速強化ヲ必要トシ三月末ル42D 4D 51D

ヲ取敢ス一般野戰師團ニ稱號變更(43D 44D 81D 86D)シ教育訓練ニ專ル51D

念センメ越テ五月内地各軍司令部(東部、中部、西部)ヲ動員ス

六月中部太平洋ノ要衝タル「サイパン」地區ニ對スル敵ノ反攻ニ

對シ帝國ハ之カ反撃ヲ準備ス即チ本土兵團ノ現況ニ鑑ミ滿洲ニ於

テ公主嶺學校ヲ基幹トシテ第六十八旅團ヲ動員、第四十七師團ノ

一部(歩兵三大、砲一大工、一中基幹)ノ緊急編成、第九師團ノ

抽出、在滿動員計畫部隊ノ獨立速射砲中隊十五箇、戰車聯隊二ヶ

一二ノ一

筒 (26IK) (27IK) 野戦重砲兵第一聯隊、内地ニ於テ動員計畫中ノ獨立速
 射砲大隊五箇 (89101112) 機關砲大隊三箇、野戦重砲兵及重砲
 ノ各一大ヲ假編等急速ニ準備セルモ之カ實施ハ中止シ此等部隊ハ
 主トシテ比島及小笠原方面ノ戰備強化ニ充當セラレタリ
 スクテ「サイパン」地區ノ失陥及同方面ニ於ケル帝國海軍ノ大ナ
 ル損耗ハ茲ニ太平洋戰局ニ一轉機ヲ劃スルニ至リ敵海上勢力ハ我
 カ本土周邊ニ對スル行動ノ自由ヲ得我カ本土ハ隨時敵ノ攻撃ヲ豫
 期セサルヘカラサル至リ大本營ハ本年後半期米軍主力ノ進攻ニ對
 シ決戦ヲ指導シ其ノ企圖ヲ擊摧スヘク方針ヲ變更シ戰軍ノ決戦方
 面ヲ本土、臺灣、南西諸島圏域及比島方面ニ選定ス
 之カ爲六月末主トシテ伊豆諸島強化ノ爲獨立混成聯隊五箇 (1415
 161718) 但15ハ沖繩ヘ) 獨立機關砲大隊五箇等次テ八戸平地方面防
 備ノ爲第四十七師團及之ニ關聯シテ留守第五十七師團ヲ動員ス越
 テ七月内地留守師團等ヲ基幹トシテ一般師團九箇 (3GD 72D 73D 77D 84D 86D
 44D 81D 93D) 千葉陸軍戰車學校、陸軍騎兵學校、四平戰車學校教導聯

隊ヲ基幹トシテ戰車第四師團並ニ所要ノ電直部隊ヲ編成ス
而シ之等兵團中 81D 93D ラシテ反撃戦力ノ中核タラシムル爲編制ニ關
シ特ニ考慮スルノ外人的部面強化ノ爲前者ニ在リテハ實施學校ノ
一部人員ヲ後者ニ在リテハ實施學校ノ幹部ヲ大基幹トセリ
尙右反撃兵團及戰車師團統率ノ爲七月十五日新ニ第三十六軍ヲ設
ケ大本營直轄トス
抑ト兵備建設ニ當リ人的物的國力ヲ檢討ノ上作戦上ノ要求ヲ勘案
シ之カ規模ヲ決定スルハ當然ナルヘキモ今次兵備ハ本土防衛ヲ急
速ニ完整スヘキ絶對的作戦上ノ要求ニ基キ不足資材ハ將來ノ生産
ニ依存スルコトトシ陸軍ノ保管在庫資材ノ全部ヲ展開シ兵備ヲ實
施スルノ止ムナキニ至リ之カ方針ヲ採用セリ即チ國軍兵備ニ於テ
初メテ動員兵力ト國力トノ均衡ヲ失スル現象ヲ呈シ爾後ノ兵備建
設ニ重大ナル影響ヲ波及スルニ至レリ
而シテ準備ナキ急速ナル兵備ナルヲ以テ人員ハ努メテ在營者ヲ充
用シ野戰師團ノ衛戍地出發ニ伴ヒ逐次充用スル如ク規定セリ之カ

六二一ノ二

爲在營者ノ大部ハ短期間ノ補充兵ノ關係上部隊ノ戦力ハ極度ニ低下シ又馬匹ハ衛戍地出發迄全般ニ二割ノ缺數ヲ設ケ學校配屬將校モ三割ニ一名程度ニスルノ已ムナキ狀況ニアリタリ

又内地ニ於ケル築城ノ急速完成ノ爲從來關東軍ニ在リテ國境築城ニ任シアリシ關東軍築城隊ヲ防衛築城隊ト改稱シテ内地ニ轉用防衛總司令官ニ隸屬セシメ築城施設ニ關スル業務ヲ行ハシム

七月末戰車聯隊四箇 (2IK 18IK 19IK 22IK) 獨立戰車大隊三箇、通信聯隊二箇

箇及其ノ他若干ノ通信部隊ヲ動員八月ニ於テハ獨立迫撃大隊十箇ヲ動員スル等内地兵力ヲ逐次充備シ來レルモ十月比島「レイテ」島ノ作戰生起スルヤ國軍ノ全力ヲ之ニ投入スル方針ノモトニ戰車第四師團ノ自走砲大隊、内地各野戰師團ノ師團速射砲(十七耗)等ヲ抽出シ向方面ニ又支那大陸方面ノ戦況ニ鑑ミ第四十七師團ヲ十九年末支那ニ轉用トセリ

中露海及南西諸島兵備

1 昭和十八年度末頃迄ニ於ケル同方面兵備ノ概況臺灣及南西諸島方

面ノ兵備ハ大東亞戰爭^緒ノ終々タル戦果ニ依リ當初ニ於テハ大

ナル必要性ヲ認メス空地共皆無ニ等シキ狀況ニアリタリ^{師團司令部ハナシ}

ニハ臺灣軍司令部^{臺北}ノ轄下ニ第四十八師團各部隊補充隊及

基隆、澎湖島、高雄ノ要察部隊及若干ノ要地防空部隊ノミナリキ

然レトモ爾後在支空軍ノ増強潜水艦ノ跳梁ノ爲昭和十九年初頭高

雄ハ南方トノ連絡上重要ナル港灣ナルニ鑑ミ其ノ戦備ヲ強化シタ

ル外見ルハキモノナク南西諸島ハ西部隊ノ防衛擔任地區ニシテ奄

美大島、中城灣、船浮要塞ノ外昭和十八年六月奄美大島、沖繩本

島、宮古島等ニ若干ノ特設警備隊ヲ新設セルノミナリキ

2 以上ノ如キ狀況ニ於テ各敗情勢特ニ太平洋方面ノ戦況ハ此ノ南北

連絡圖ノ防備ヲ急速強化スルノ要アルニ至リ「十號作戰準備」ト

シテ昭和十九年三月ヨリ之ニ着手ス當時ニ於ケル作戰準備ノ方針

左ノ如シ

十三ノ一

1890

同方面ノ作戰準備ハ航空作戰準備第一トシ爾他ノ準備ハ之ニ從屬スルモノトス

兵備モ亦右方針ニ則リ地上兵備ハ他方面ノ兵備ヲ航空基地確保ニ必要ナル最少限ノ兵備内容トシ然レトモ船舶量ノ減少及總動員上ノ要請ニ伴ヒ本土ヨリ投入スヘキ人員ハ爲シ得ル限り之

右方針ニ基キ

三月十五日大本營直轄ノ第三十二軍司令部ヲ新設シ五月三日沖繩本島ニ獨立混成第四十四旅團高射砲大隊等宮古石垣島地區ニ獨立第四十五旅團、徳之島ニ獨立歩兵隊二十一聯隊那覇地區泊地防空ノ爲高射砲大隊一箇臺灣西部平地ニ第四十八師團補充隊ヲ基幹トシテ第五十師團（自動車編制）東部花蓮港地區ニ獨立混成第四十六旅團、パシフィック海峽中六ブアン島ニ歩兵一編成ヲ發令ス右ニ伴ヒ奄美大島、中城灣、沿岸要塞部隊ハ之ヲ復員シ要塞重砲兵聯隊ハ重砲兵聯隊ト改稱ス

十(白)航空兵備

大東亞戰爭完遂ノ骨幹戰力タルヘキ航空兵備ニ關シテハ特ニ昭和十八年末以來皇軍ノ總力ヲ導ケ「航空優先」ノ決意ノ下着々其ノ實現ニ努力シ昭和十九年度飛行機生産豫想約二萬數千機、航空要員養成教育數約二萬(其後約三分ノ二ニ縮少)ヲ基礎トシテ作戰兵力ハ十九年度末ニ於テ約四〇〇中隊(十八年度末二一一中隊)達成ノ規模ノ下ニ發足シ昭和十九年十月比島作戰開始前ニ於テ約二百六十四中隊ニ達セリ

昭和十九年 末ニ於ケル航空兵力ノ狀況ニ就テ

(甲)陸軍航空總兵力ハ十九年度末約三四萬ニシテ五ヶ航空軍、一〇

ヶ飛行師團、一ヶ教育飛行師團、一ヶ航空師團ニ編組シ其ノ配置

ノ概要ハ別紙第一ノ如シ

(乙)飛行部隊第一線兵力ハ約二六四中隊ニシテ

戰團一四六中隊

襲撃、輕爆四〇中隊

重爆 三七中隊

偵察 三二中隊

對潛 九中隊 ナリ

而シテ飛行機ノ定數ハ約三一五〇機ナルモ當時補充（補給）未
タ苛烈ナル比島決戰ノ損耗ニ追隨シ得サルト最前線基地組織ノ
不備トニ依リ常時出勤機數ハ概不定數ノ約五〇機内外ナリキ
陸軍保有ノ操縦者ハ大約一〇、〇〇〇ニシテ其ノ配分ハ

第一線作戰部隊 約二、五〇〇

其ノ他部隊 約三、六〇〇

十一月航士校鍊成（教育）飛行部隊ヲ終了セル者 殘部

ナリ而シテ操縦者養成ハ十八年來急激ニ増加セル關係上其ノ大
部ノ戦力化ハ尙昭和二十年以降ニ存シ又敵反攻ノ熾烈化ニ伴ヒ
練達操縦者ノ損耗増加シ前述第一線作戰部隊ニモ若干ノ技術未
熟者ヲ混在シ且爾後ニ於ケル補充要員ノ大部ニハ之等未熟者ヲ
充テサルヘカラサル實情ニ在リキ

2 昭和十九年度航空兵備ノ計畫ト実績トニ就テ

主トシテ十九年秋以降特ニ二十年初頭ニ於ケル飛躍的増勢ニ依リ昭和二十年三月末ニ於ケル航空兵備ハ昭和十八年度末ノ約二倍即約四〇〇中隊トスル計畫ニ基キ満足セシカ雖多基礎條件ノ變化ニヨリ昭和十九年末ニ於テハ豫定ノ概二分一程度ヲ實現シ得タルニ過キス

且昭和十九年度末ヲ自途トスル爾後ノ擴充兵備ハ比島決戦正面部隊ノ戦力充實、再建ヲ優先實行スル場合多クヲ期待シ得サリキ
(註)十一月頃迄ノ建設兵備ノ豫定ト実績對照別紙第二ノ如シ

3 比島作戰關係航空戦力ノ狀況ト補充補給ニ就テ

比島決戦發令ト共ニ當時ノ航空戦力ノ約半部ヲ之ニ集中シ作戰ヲ開始セリ而シテ累次ノ攻勢ニ依リ其ノ間ノ損耗大ニシテ十一月末ノ第四航空軍ノ戦力左ノ如シ

(1) 操縦者保有數 四一一 (内甲二三九、乙八六、丙八六)
(2) 飛行機保有數 四五七 (内甲二二六、乙一五一、丙八〇)

(イ)整備完了機数 約二二〇機 (右ノ内甲)

(ロ)出勤可能機数 約一二〇―一三〇 (作戦ノ節度ニ關シ常時浮動シアリ)

而シテ十月初頭以降十一月末日迄ノ間ノ損耗、補充ノ狀況左ノ如

損 耗 補 充

操縦者 二〇一名 約二五〇名

飛行機 一〇四七機 一〇六九機 (20/10以降)

々昭和十九年末航空兵備關係重要諸問題ニ就テ

(イ)内地航空作戦体系強化

内地ニ於ケル航空作戦就中進攻ト防空トノ調節ヲ圖リ其ノ戦力

發揮ヲ容易ナラシムル爲既設ノ教導航空軍司令部ヲ分離獨立シ

テ純作戦軍司令部(第六航空軍司令部)ヲ編成ス

右ニ伴ヒ航空通信、修理、地區關係部隊ヲ強化ス

(ロ)内地ノ教育補充動員体系強化

第一線ニ於ケル航空部隊ノ擴充強化ニ伴ヒ内地ニ於ケル教育、

補充、動員体系ノ強化改善ヲ圖ルノ要アリ戰況ヲ勘案シツツ之
カ具体化ヲ企圖ス

(ハ)昭和十九年度後期兵備ニ就テ

昭和十九年度左記諸點ニ關シ著意ノ上發足ス

(1)指揮組織特ニ基地諸部隊統轄組織ヲ改善ス

(2)飛行部隊ノ實の戦力ヲ改善強化ス

(3)整備力ヲ充實強化ス

(4)航空基地強化ノ爲基地諸部隊ヲ増強ス

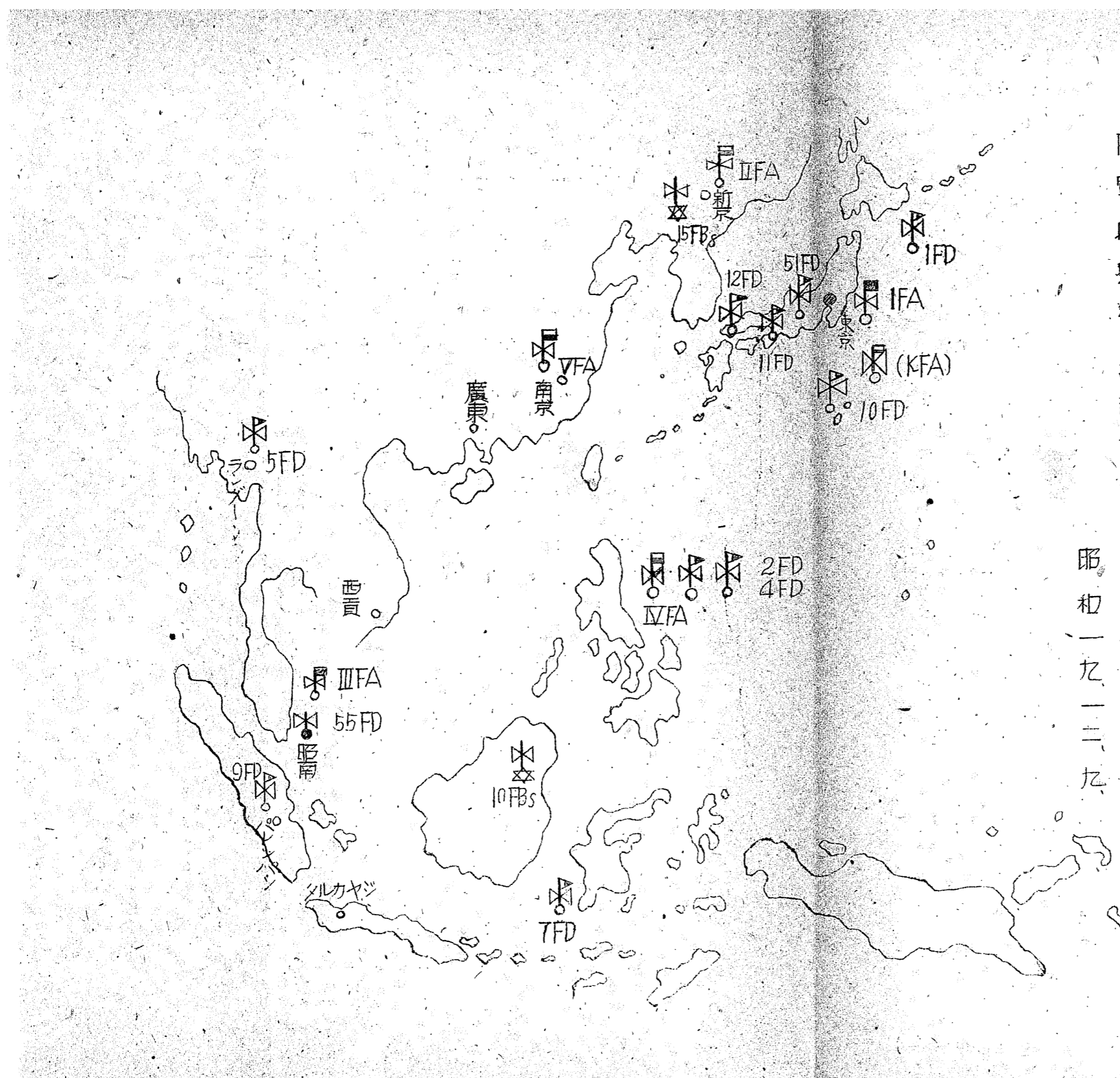
(ニ)南方ニ於ケル教育飛行部隊ノ整理

南方地域ニ於ケル空中勤務者(操縦)補充養成機關タル獨立教

育飛行團四箇(比二、「マレー」二)中比島ニ在リシ二箇ヲ比

島決戰ノ發令前「マレー」地區ニ轉進セシメ此等ノ四飛行團ノ

統轄機關トシテ第五十五航空師團司令部編成ヲ發シス



別紙第一頁ノ二
陸軍航空飛行部隊現況概見図
昭和一九三九

十四七

1897

	F (FC)			
FB	△	△	●	○
0 固	1 中 □	□	2 □	約柳 □

類		F (FC)				
屬	FD	FB	△	●	○	對 瀆
1 FA	0 0	0 0	3 2	1 3	1 2	1 1
防	10 FD		5 □		1 (1)	
總	11 FD	三	2 2		(1)	
	12 FD		2 □	1	(1)	
舵總				1 (1)	(2)	
朝鮮軍						(1)

F (FC)									
哨	對 瀆	一	一	●	△	△	FB	FD	FA
(1)	(9)	1 (4)	9 (7)	12 (3)	13 (1)	46 (5)	20	10	5
1	9	6	26	36	40	146	叔隊中		
264							討合隊中		

1898

本表ノ外聯合艦隊指揮下ニ
 船舶司指揮下ニ
 對潛中
 入アリ合計中ニハ計セシアリ

註一 本表中口ハ他ノ指揮下ニ入リア
 ルモノヲ示ス
 口ハ他ノ隷下ヨリ指揮下ニ入リア

隷屬	FD	FB	F (FD)				
			△	△O	●	◡	對潛
台	FD	FB	△ (7)	△O (2)	● (1)	◡ (1)	對潛 (6)
南方軍	直轄	五 三	9 ¹	3 ¹	3 ¹	2 ¹	
	4直	三 〇 〇 二 六 〇	6				
	2FD	六 七 三	△	△	2	2	
	FA	△FD					(2)
	7FD	三 九	2	2	1	(1)	(1)

隷屬	FA	FB	F (F.C)				
			△	△O	●	◡	—
関	二	五 四	△ (2)	△O (2)	● (1)	◡ (1)	— (1)
支	五	△ 三	2 (2)	2 (1)	(1)	1	1 (1)

隷屬	FA	FD	FB	F (FC)				
				△	△O	●	◡	對潛
南方軍	3	直		1			1	
FA	五	四	2	1			1	
軍	九		△ (2)				(1)	(1)

1899

而シテ南西諸島ニ配置スヘキ部隊人員ノ約半數ハ現如在郷軍人ヲ以テ充ツルコトトシ其ノ大部ヲ防衛召集方式ヲ採用シテ必要時隨時召集シ以テ狭少ナル地ニ於ケル高率ナル召集ニ伴フ民心ノ動搖ノ防止ニ着意セリ

又臺灣ニ於テ編成スルキ部隊ニ要スル人員ノ大部ヲ内地ヨリ輸送スルコトニ關シテハ軍政當局ニ大ナル異論アリタリ然レトモ在留ニ在郷軍人ノ大部ハ島内ノ治績及警察關係ニシテ之ニ期待スルニハ限度アルハク已ヲ得ス編制所要人員ノ約半部ヲ昭和二十年徵集本島人ニ期待スルコトニ決セリ斯クシテ動員完結セル南西諸島充實ノ混成ニケ振團ハ六月末内地ヨリ輸送途中奄美大島近海ニ於テ海没シ其ノ大部ヲ喪失シ南西諸島ノ兵備ハ再發足スヘキ苦境ニ立到リ取敢ス之ヲ再建スルニ於テ動員完結シアリタル獨立混成第十五聯隊ヲ沖繩本島ニ空輸ス區ノ失陥海軍作戦ノ失敗ニ伴ヒ本土ニ於ケル以上ニ兵備ノ強化ハ一日ノ偷安ヲ許サルニ至リ滿洲ヨリ第九師團(沖繩)第二十四師團(沖繩)第二十八師團(宮古島)支那ヨリ第六十二師團(共ニ

沖繩ニラ轉用スルノ外七月十五日ニハ臺灣軍司令官同二十五日ニ
第三十二軍司令部ヲ強化ス七月中旬先ニ動員シ花蓮港地區ニ在ル
獨立混成第四十六旅團ヲ基幹トシテ第六十六師團、徳之島ノ獨立
混成第二十一聯隊ヲ獨立混成第六十四旅團ニ逐次増強ヲ圖ル外缺
員充足スルト共ニ宮古島ニ獨立混成第五十九、第六十旅團七月十
二日編成下倉ヲ投シ九月中旬第五十師團第六十六師團ノ後方部隊
ヲ整備シ作戰行動ニ支障ノカラスメ次テ在臺兵站部隊ヲ充備シテ
部隊ノ機動作戰遂行ニ遺憾ノキヲ期シタリ
尙「マリアナ」反擊地上部隊トシテ公主嶺教導聯隊ヲ動員セル第
六十八旅團ヲ海上機動反擊部隊トシテ臺灣ニ推進ス
九月二十二日臺灣軍司令官ヲ第三十二軍ノ統率上第十方面軍ニ改
メタリ

爾後昭和十九年末迄ニ滿洲ヨリ第十師團ヲ臺灣ニ轉用セルモ比島
方面ノ戰況ニ鑑ミ第六十八旅團ト共ニ之ヲ同方面ニ推進シ之ヲ補
填トシテ第九師團ヲ沖繩ヨリ轉用スルト共ニ引續キ滿洲ヨリ第十
二第七十一師團ヲ轉用シ其ノ武備ヲ強化シ之ヲ構成ス

1901

十(防空兵備(缺))

1902

別紙第二

(註)十一月迄ノ建設兵備ノ予定ト実績對照表

考 備	計	月 區									次 分	作 區	既 定 計 画	實 績
		十二 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月				
(1) 本表ノ外戰訓五戰隊輕爆一戰隊軍偵一中隊 復歸セリ(八月)	16	4	2	4	1		2	3			△	戰 鍊 成 教 育	作 實	
	4中		2中	2中							△			
	10中	3中	3中	4中							⊙			
	17隊		1隊	3隊			1隊				△			
	2隊		1隊				1隊				△			
	11隊		6隊				5隊				△			
	④ 1隊 2隊						1隊 2隊				⊙			
	16中	5	3	3	12中		2	1			△	戰 鍊 成 教 育		
	4中		4中								△			
	7中 (19中)		6中 (16中)		1中		(2中)		中		⊙			
	11中				1中	1中					△			
	17隊	6隊	3隊			8隊					△			
	2隊	1隊				1隊					△			
	5隊					5隊					△			
④ 1隊 2隊					1隊 2隊					⊙				

14-8

1903

昭和十九年末ニ於ケル陸軍兵力ノ概況別紙ノ如シ

一五ノ一

1904

<p>考 備</p> <p>△ 滿洲 戰車一 地上二</p> <p>□ 支隊 戰車一 地上二六</p> <p>○ 南方 航空戰車一 地上三六</p> <p>◎ 東本 南洋平地上三</p> <p>○ 中本 南洋平地上三</p> <p>○ 其他内地 北東(倉)</p> <p>△ 戰車一 地上二 戰車一 地上二七 戰車一 地上二九</p> <p>△ 戰車一 地上二九</p>	90	1G 東	2G 25A	3G 0																
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10									
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20									
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30									
	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40									
	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50									
	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60									
	60	61	62	63							70									
	70	71	72	73			76	77												
	80	81		83	84	85	86													
	90	91		93	94						100									
	100		102	103	104	105		107	108	109	110									
	110	111	112		114	115	116	117	118	119	120									
	留	11	12	13	14	15	16	17		19	20									
	師	51	52	53	54	55	56	57			30									
戰車	1A	2	3	4																
航	1	2		4	5		7	8	9	10										
空	5/E				55															

師
團
覽
表

十五
二